

平成 25 年度第 3 回竹島を考える講座

韓国のナショナリズムと竹島

県立広島大学 原田 環

平成 25 (2013) 年 9 月 14 日

島根県職員会館 2 F 多目的ホール

注意) 未定稿につき引用不可

はじめに

- I. 東日本大震災時における韓国の対応
- II. 日本の教科書改訂に対する韓国の反応
- III. 韓国の竹島問題とは何か
- IV. 韓国の反日運動
- V. 韓国のナショナリズムの特質

おわりに

はじめに

2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災に際して、当初、韓国は台湾について日本に対し積極的な支援を行った。ところが、同年 3 月末に、日本の文科省が中学社会科教科書に竹島（韓国名は独島）が従来よりも積極的に取り上げられた検定結果を公表すると、韓国内の支援ムードは一転してトーンダウンし、韓国は竹島の実効支配を強化した。

韓国のこのような動きの背景には何があるのか、戦後の韓国社会における竹島が持つ意味について検討したい。

I. 東日本大震災時における韓国の対応（日本の教科書検定結果発表<2011. 3. 30>前）

東日本大震災への韓国の対応＝人道主義的立場

2011. 3. 11 東日本大震災発生

3. 12, 14 レスキュー隊を日本に派遣

3. 14 大韓赤十字、支援の募金活動開始

3. 27 現在：約 213 億 4500 万ウォン（約 15 億 6540 万円）

4. 18 現在：約 392 億ウォン（約 30 億円）

※韓国全体で 556 億ウォン（約 42 億円）

・・・海外支援募金としては過去最高

Cf. 台湾の募金活動

・最終的には約 200 億円 (2011.9 現在)

- a. 東日本大震災への対応と教科書問題との分離の姿勢
- b. 韓国、台湾の募金——日本に対する「友情」

II. 日本の教科書改訂に対する韓国の反応 (日本の教科書検定結果発表<2011.3.30>後)

日本の文部科学省、平成 24 年度から使用の中学教科書の検定結果を公表

→竹島、尖閣諸島の記述が増大

韓国側の反応—竹島の記述が増えたことに反発

- 1) 東日本大震災への義捐金活動、急減速
 - a. 義捐金の減少
 - b. 募金活動の中止
 - c. 義捐金を不送付
- 2) 竹島を韓国領と明記した韓国史の高校必修化
- 3) 竹島の実効支配強化

2011.3.30 韓国政府、竹島実効支配政策の継続を発表

4. 1 李明博大統領、「独島は我が領土」と言明
4. 4 韓国政府・ハンナラ党、竹島に海洋総合基地の建設を決定
5. 24 国会議員 3 人、日本の北方領土の国後島を訪問
5. 25 白喜英女性家族部長官、竹島を訪問
6. 15 孟亨奎・行政安全部長官、竹島を訪問
6. 16 大韓航空の A380、竹島上空をデモ飛行

→日本政府、外務省職員の大韓航空機使用禁止

- 4) 日本の国会議員の鬱陵島訪問拒否

III. 韓国にとって竹島問題とは何か

1. 韓国政府：韓国（韓民族）の解放と独立の（歴史の）否定

「日本の独島領有権の主張は、植民地侵奪を正当化して、我が民族の解放の歴史を否定することだ」（東亜日報、社説、2005.4.5）

2. 盧武鉉大統領（任期 2003-2008）：

「独島は日本が日露戦争遂行のために占領したものだ。日本の主張は過去の植民地に対する領土権を主張するもので、韓国の解放と独立を否定するものだ」（産経新聞、2006.4.25）

3. 韓国安全保障会議（NSC）：

「(1905 年) 日本の独島占拠は 1894 年清日戦争から 1910 年韓日併合に至るまでの日本の韓半島侵略史の中心に位置している・・・そのため、独島問題の本質は生きている歴史であり、主権回復の問題」（朝鮮日報、2005.3.30、電子版）



- a. 日本が竹島の領有権を主張することは、韓国が解放闘争の結果独立したという歴史を否定すること



- b. 竹島は韓国独立運動の戦果・象徴
【特徴】戦前の独立運動と戦後の竹島武力占拠を連結して捉えている＝共通するもの反日運動



- c. 日本が竹島の領有を主張することは、韓国の反日運動の歴史を否定すること

IV. 韓国の反日運動（独立運動、竹島武力占拠、日本海の呼称反対運動など）

1. 韓国史の時代区分：古朝鮮→三国時代（高句麗、百濟、新羅）→（統一）新羅→高麗→朝鮮（1392-1897）→大韓帝国（1897-1910）→日本の支配（1910-1945）→三一独立運動（1919）→大韓民国臨時政府（1919-）→米軍の軍政（1945-48）→大韓民国（1948-）
2. 反日運動——大韓民国の建国伝説＝「正しい歴史認識」
 - 1) 第二次世界大戦前——日本の支配に対して独立を目指して戦ったという伝説
 - a. 併合（1910）前後
第二次日韓協約反対運動（1905）、第三次日韓協約反対運動（1907）、三一独立運動（1919）
 - b. 武力闘争
 - ①鳳梧洞の戦闘（洪範図の大韓独立軍、1920. 6-7）
 - ②青山里の戦闘（金佐鎮の北路軍政署軍他、1920.10）
金佐鎮→2013.8.13 進水の韓国海軍潜水艦（1800 t）に命名
※実際は小規模なゲリラ戦。戦果については日本の記録と大きな差異がある
 - c. テロ
 - 1909.10 安重根による伊藤博文暗殺（中国・ハルビン駅）
 - 1932.4 尹奉吉による白川大将などへの爆弾テロ（上海）
 - 2) 第二次世界大戦中—— 連合国の一員として戦ったという伝説

1) 大韓民国臨時政府(重慶)が1941年に対日宣戦布告し、韓国光復軍が連合国の一員として参戦したと主張

※しかし、米国は大韓民国臨時政府を承認せず、したがって連合国の一員として認められていない。

2) 今日、韓国はあたかも連合国の一員であったかのような言動する場合が多い(靖国問題等)

3. 第二次世界大戦後——竹島武力占拠(竹島を奪回したという伝説)

1945.8 日本降伏

45.9 米軍、仁川に上陸→米軍政庁設置→北緯38度線以南を支配

1946.6.22 米軍、マッカーサーライン設定

1948.8.15 南に大韓民国成立

1950.6 朝鮮戦争勃発

1951.9.8 サンフランシスコ講和条約調印→竹島を日本領とみなす

51.11.14 朝日新聞の寺尾宗冬記者ら竹島に上陸

1952.1.18 李承晩ライン設定

1952.4.25 マッカーサーライン撤廃

4.28 サンフランシスコ講和条約発効

1953.2 第一大邦丸事件

53.4 鬱陵島の独島守備隊による竹島武力占拠

53.6 日本の海上保安庁と島根県、竹島に領土標識を立てる

1953.7 朝鮮戦争休戦 53.7 独島守備隊、巡視船「へくら」に発砲

4. 「日本海」の呼称反対運動

当初、「日本海」を「東海」に変更することを主張、後に「日本海」と「東海」の併称を主張

V. 韓国ナショナリズムの特質

1. 形成

1) 時期: 1900年代

第二次日韓協約反対運動(1905)、第三次日韓協約反対運動(1907)

2) 人物: 朴殷植(1859-1925)、申采浩(1880-1936)など

(拙稿「朝鮮近代ナショナリズムの形成」(『朝鮮民族運動史研究』3, 青丘文庫、神戸、1986)

3) 内容：日本に対抗—反日思想

2. 構造

	(思想)	(反日運動の伝説)
(戦前)	小中華思想	鳳梧洞の戦闘 (1920)、青山里の戦闘 (1920)
(戦後)	小中華思想	<u>竹島の武力占拠 (1953)</u> 、「日本海」の呼称反対

3. 特徴

小中華思想+反日思想

1) 戦前戦後とも一貫して小中華思想が主軸

小中華思想——上下の序列意識。日本に対する文化的優越意識 (Cf.中華思想)。古来、韓国は日本に対して文化的に優越し、恩恵を与えたが、日本はそれに対して恩を仇 (豊臣秀吉の朝鮮出兵、韓国併合など) で返したと強調 (「先進の韓国、後進の日本」という図式)。中国大陸の国家が朝鮮半島の国家に与えた影響については言及せず。【→韓国の歴史教科書】

2) 韓国の反日思想は、戦前のみならず、戦後の日本をも敵視している。従って、戦前の日本だけに向けられた単なる独立思想ではない。

竹島の武力占拠、「日本海」の呼称の否定など

おわりに

1. 竹島は韓国の反日ナショナリズムの輝かしい戦果であり、シンボル。
2. 韓国ナショナリズムは小中華思想に基づく反日思想 (平等な国際関係を否定する国際観。日本を否定する思想)。韓国のナショナリズムは強く主張するが、日本のナショナリズムは右翼的として否定。
3. 韓国ナショナリズムは内容を戦前の独立運動、戦後の竹島武力占拠、現代の日本海の呼称反対運動と、課題を変えながら展開
4. 韓国の主張する「正しい歴史認識」とは、韓国ナショナリズムの観点からの歴史認識であって、客観的な事実認識ではない。韓国は「歴史認識」を外交の武器にしている。歴史戦争、東北アジア歴史財団
5. アジア諸国の対日評価